



発行所  
三池炭鉱労働組合  
大牟田市入船町1番地  
大電話(53)3033-4  
編集人 田口芳博  
発行間 1,800円 送料共  
半年 振替口座番号  
労働金庫大牟田支店  
825-0000569

三池不当解雇  
訴訟第八回公判  
日時 三月七日(水) 午後一時半  
場所 福岡地裁三〇一号法廷  
※ 当日は午前11時大牟田駅集合  
11時23分発西鉄電車で出発。

# 試練の年、さらに団結を

## 定期総会で行動方針・予算を決定

三年連続の激しい合理化闘争の結果、開催日程を大幅に延期して、一九八九年の三池労働定期大会が一月二十八日午前九時から労働金庫大牟田支店ホールで開かれ、さらに団結を強めて今後一年間のたかひに取り組み行動方針と予算を決定し、大会宣言、スローガンを採択して午後五時二十分閉会しました。

定期総会は、組合歌「炭掘る仲」の全員合唱で始まり、議長団あいさつのおと二年間の犠牲者に黙とうを捧げました。

冒頭、恒例の退職者表彰では二十一人(基準解雇者十七人、その他退職者三人)に表彰状と記念品が贈られ、代表して杉本一男さんが



定期総会の冒頭、表彰をうけた退職者

お礼と決意を述べました。

開会あいさつに立った中原組合長は、石炭政策と合理化問題、たかひの課題にふれて決意を表明、さらに藤田主婦会長が「たかひをなにかぎり守り守り守り守り」ともたたかいます」とあいさつ。ついで来賓あいさつでは、城之内大地評会長、細谷日本社会党代表、笠原日本共産党代表、緒方三池退職の会長、酒井政治局長、表がそれぞれ情勢や石炭政策、合理化、総選挙問題にふれながら、熊本連合および県評センター加盟に論議が集中、延べ十六人が討論に立ち、執行部からは「炭炭」ともたたかおうと必要性。加盟に よって三池労組のたかひに制約はないこと。今後三池のたかひを継承・発展させていくこと」

報告事項では、一九八八年度の決算報告と監査報告について四人などの答弁があり、最終的に行動方針全体についての無記名投票を決定されました。

# 全力あげ要求実現へ

## 切実な労協、福利・厚生諸要求

労働協約、労働条件、福利・厚生など、三池炭鉱で働くすべての労働者の切実な要求は、三年連続の合理化以前から一方的な交渉延期や逆提案、コスト削減策に伴う緊急対策などが進行されて踏みにじられてきました。

### 要求の骨子

- 一、労働協約・労働条件関係
  - ①文化資金を人当たり七千円に増額すること。
  - ②住宅資金交付を定年前三年からとし、退職金の五割を割り増しすること。
  - ③他三項目。
- 二、福利・厚生関係
  - ①当座予算をそれぞれ五〇％増額すること。
  - ②住宅近代化資金、特別当座予算を五〇％増額すること。
  - ③(以上中央交渉事項)

## 保安確保こそ前提

### 十二日から保安点検月間

第八次石炭政策下で国内炭の出炭量は一千万トンと割り、今後さらに政策最終年度に向けて縮小合が憂慮されています。

この総会は、三年連続して強行された大合理化の厳しいたかひを経て開かれることになった。

また、この総会は、日本の労働運動の命運をかけた、労働戦線の統一の大きな流れの中で、三池労組が今日まで、幾多の苦闘を乗り越えながら、一貫して追求し続けてきた労働者の命と生活と権利、平和と民主主義を守り抜くためのたかひをどのようにつぎつぎと継承し、さらなる前進をはかるか、という中・長期的な展望に立った進路の選択を決意した総会でもあった。

いま、第八次石炭政策は終年まで二年を残すところまでだが、石炭産業の置かれていく現状は、うちつうの山と大合理化の嵐の中で、辛うじて生き延びているが、文字通り「石炭つぎ」の「つぎ」の状況を強めて、事実上、政策は破綻をきたすことも過言ではない。

とりわけ、三池炭鉱における「生き残り」を理由とした大合理化攻撃によって、労働者・地域住民は一方的な犠牲を強要されているが、断じて容認できない不当なものであった。

苦しいたかひを継続しているが、われわれはさらにたかひを強め、我が国唯一のエネルギー資源を守り、石炭復興のための第九次石炭政策の実現、地下労働にふさわしい労働条件の獲得をめざすと同時に、不当解雇裁判闘争の勝利を確信した。

一九九〇年一月二十八日  
三池炭鉱労働組合  
定期総会

## 大会宣言

# 自民党の過半数割れで石炭政策確立を